

では「意思決定は個人か集団でする方がよいか」との質問にも男女共に80%以上、特に女性の場合には90%以上が集団の決定の方がよいと考えている。しかし、実際にはアメリカでは意思決定はトップによって個人的に決定されているのである。そのことに関して部下たちは批判的だということがこの回答に反映されているようである。

「困難な決定をしなければならない仕事か楽な仕事かどちらがよいですか」という質問に対し、「たくさんの困難な決定をする仕事」をしたいという回答が最も多く65%を占める。また「少しの困難な決定をする仕事」をしたいという回答も32.3%で合計すると97.3%である。さすがはエリート集団である。楽な仕事をしたいという回答はたったの0.9%である。有意な男女差はみられないが女性には全然責任のない仕事をしたいという者が2.2%いるが男性にはまったくみられない。

「昇進のための業績評価は年功か能力主義のどちらがよいですか」と質問したら年功主義がよいという回答は1人もいない。能力主義がよいという回答が最も多く42.7%を占める。しかし、年功と能力主義の両方がよいという回答も33.6%もいるのは驚きである。男性の方が女性よりこう回答した者が多く、女性は「わからない」と回答した者が28.3%いる。

「将来昇進できると思いますか」という質問にできないという回答が最も多く29.1%を占める。次に多いのはわからないという回答で25.0%である。この2つの回答は女性の方が男性より多い。しかし残りの女性は男性と同じように将来昇進できると思っているのである。だが「どこまで昇進できると思いますか」という質問に対しては地位が高くなるにつれて男性の割合が増加している。アメリカには glass ceiling と呼ばれる現象があり、女性がある程度まで昇進するとそれ以上はガラスの天井があって昇進できないと言われているがこの調査結果もそれを反映しているようである。

「売り上げ業績などあなたの業績を示す数字は重要ですか」という質問に対し、「そのような数字はない」という回答が17.7%いるが、ある場合には「やや重要」とあるという回答が最も多く28.2%である。次に「かなり重要である」が

26.8%で「非常に重要」も含めると67.7%が重要だと考えているのである。男女別にみると「重要ではない」という回答は男性の9.4%より女性の19.6%の方が多い。

最後に会社はどの程度大切だと考えているのであろうか。男女共に「人生において個人的な生活よりも大切である」という回答は2%台で最も少ない。最も多い回答は「お互いの目的を達成するために働く場所」である。2番目は「個人的な生活と同等に大切である」という回答である。これは男性の29.1%より女性の方が多く35.9%である。また、「個人的な生活とは切り離された単に働く場所である」という回答は男性の方が24.4%で女性の15.2%より多い。

4) 会社との関係

次に会社との関係についてエリート達はどのように考えているのか10項目について聞いてみた。まず最初に「もし給料が不公平だと感じたらあなたはどのようにしますか」という質問に対し、最も多い回答は「直属の上司か労働組合を通じて苦情を言う」で70%を占める。次は「人事課に直接行って苦情を言う」で14.5%である。日本人のように「何も言わないで辛抱し上司を信頼する」はたったの7.3%である。男女別にみると辛抱するのは女性より男性に多く、女性は不満をただちに組合などに訴えるようである。

「野球、ピクニック、一泊旅行などの社員のためのイベントに関して会社はどうすべきだと思いますか」という質問に対し、「会社が計画を立てるが社員の自由参加に任せる」という回答が最も多く50.9%を占める。次に多いのは「会社が計画を立て全社員の参加を奨励する」で28.6%である。男女別にみてもこの順位に変わりはないが、3番目に多い「会社が計画を立てるが参加は社員の自由に任せる」は男性の方が女性より多い。「計画も参加も全て社員に任せる」という回答は女性にはまったくなく、男性にも18.6%だけである。会社がお膳立てをしてくれれば参加するかもしれないが自分達で計画を立てて参加するという積極性はないようである。もともとこのようなイベントはアメリカの会社にはあまりみられないのである。

「給料に家族手当はどの程度含まれるべきだと